



家畜の暑熱対策について



曲 **産** 山下 和彦 下島営農指導センター 080-1766-6339

暑熱対策の必要性

牛は寒さには強いですが、暑熱には弱い動物です。これからの気温の上昇に合わせて、暑熱の対策に努めましょう。

牛からは、代謝熱や呼吸熱などが、ふん尿からは湿気 とアンモニアが放出されます。特にアンモニア等は呼吸 器系の疾病(肺炎等)を招きます。

従って、牛舎内の暑熱対策は、牛から発せられる熱の速 やかな放散や、アンモニア、湿気、細菌、ちり等を素早 く牛舎外へ排出することが大切です。

暑熱対策

1、畜舎環境

- ①直射日光の遮断…遮光ネットやグリーンカーテンなどを利用し、直射日光から牛を守る。(※通気を妨げないよう注意する。)
- ②畜舎内の通風換気…送風機や細霧機を活用し、空気の流れを確保することで熱や、湿気等を舎外へ放出させる。

(※通路だけでなく、牛房内が涼しくなっているか確認する。)

- ③畜舎屋根の断熱・冷却…白色塗装 (ペンキ、石灰乳)、 断熱材の設置
- ④衛生害虫の駆除…暑熱に伴い、衛生害虫(ハエ、サシバエ、アブ等)の発生が多くなる。多大なストレスとなるので堆肥出しと合わせて、消毒薬の散布を

行う。

(※特に牛房の壁際や隅にハエの卵、 ウジが隠れているので入念に散布す る。)

2、飼養管理

- ①密飼いを避ける…体熱の上昇を抑える。
- ②牛体への散水…耐熱を効率よく体外 へ放出する。
- ③牛体の毛刈り…皮膚からの体熱放出 効率の向上。
- ④涼しい時間帯の給餌…採食量を落とさない工夫。
- ⑤豊富な給水量…清潔で十分な水を給与することで、 蒸散量を増加させる。
- ⑥飼料の腐敗防止…湿気の高い時期は、粗飼料や濃厚 飼料が腐敗しやすいため、風通しの良い場所へ保存 する。

(※腐敗した飼料は、牛に悪影響となるため廃棄する。)

暑熱によるストレスは、母牛に受胎率の低下を招き、 子牛には発育に大きく影響します。このような点に注意 して、暑さを乗り切りましょう。





甘長とうがらし今後の管理



五嶋 伸幸 下島営農指導センタ-080-1729-1625

追肥

収穫始めから行う。

※アサヒエース 10 a 当たり 14~20 k g (10~14 日の目安) 又は、液肥を 500 倍かん水する。

かん水

水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を 行う。

※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなったり、曲がり果の原因になる。

整枝

主枝の4本は必ず残す。生育が旺盛になるにつれて 中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯する。

※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当 てる。

摘果

曲がり果等の不良果は早目に除去する。

※樹勢低下になりやすい。

ネット張り

2段目は1段目より 40~50 cmの高さにする。

※1段目は地面から 70 c m ぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝 4 本を広げる。

斑点病対策

Zボルドーを 500 倍で散布する。(混用はしない・果 実の汚れに注意)

害虫対策

L	スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	前日	2 回	スリップス
	ファーム乳剤	2000 倍	7 日	2回	オオタバコガ
	モスピラン水溶剤	8000 倍	7 日	2回	アブラムシ

尻腐れ対策

カルシュウム剤の散布を行う。

(ジューシーカル・スイカル・エキカル等) を $500 \sim 1000$ 倍で散布する。



水稲



水稲営農情報



新木 真一 農畜産課 課長 0969-22-1105

品質維持は水管理で

登熟を向上させるためには、根の老化 を防ぎ、刈り取り直前まで活力を維持す ることが大切です。

そのため、間断かん水による水管理を励行しましょう。収穫前の早めの落水は、乳白・心白・腹白米や粒張り不足・胴割れ米の原因となり、品質や食味を落とします。

田んぼの排水路・排水溝を整備して、

稲刈りに支障のない限り落水期は延長してください。(刈り取り5~7日前まで水田を乾かさないようにしてください。)

適期刈り取りの励行について

1穂籾の85% (籾黄化率)程度黄色く熟れる頃が収穫最 業しましぶう。

適期です。茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっていることが多いので、注意が必要です。目安は出穂期(ほ場の40%程度出穂した日)から30日たった頃です。

病害虫防除

いもち病、カメムシの予防防除対策として出穂期と、 穂揃い期の2回の防除を行ってください。散布の際は使 用基準を遵守し、飛散等のないよう心がけてください。 また、散布された際には、栽培管理台帳への記入をお願 いします。

農薬の使用上の注意事項

農薬を使用する前には、ラベルの適用内容及び注意事項を必ず確認し、適切に使用してください。作業中は農薬マスク、手袋、防除衣など適切な保護具を着用して作業しましぶう。

果樹



6月の柑橘園管理

"这个人,我们是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们



木蜜 栄次 上島営農指導センタ-080-1759-0088

今月は、高温多湿になりやすく病害虫の発生も多くなってきますので、特に注意が必要です。基本防除をしっかりと行いましょう。

1. 病害虫防除

対象品種	対象病害虫	使用薬剤	散布濃度	備考
	ミカンハダニ	ハーベストオイル 97%	150 倍	
	カイガラムシ類	スプラサイド (乳)	混用制 1,500 倍	混用散布
温州・	ゴマダラカミキリ	40	1,500 1	
中晩柑	黒点病	ペンコゼブ(水)	600倍	
	ミカンサビダニ	サンマイト (水)	3,000 倍	混用散布
	カンザワハダニ	リンマイト (水)	3,000 恒	
※黒点病防除時は展着剤を 使用		アビオンE	1,000 倍	

2. 葉面散布

- 苦土・窒素の補給(初期肥大・緑化促進)
- カルシウムの補給(新梢充実)

肥料成分	肥料成分 葉面散布		備考	
苦土	苦 土 葉面マグ			
	アミノジューシー N-14	500 倍	※いずれかを使用	
窒 素	尿 素	500 恒		
	神協スピリッツ	1,000 倍	7.3	
カルシウム	ジューシーカル	800 倍		

3. 施肥

栽培タイプ	通常タイプ			省力化タイプ
施用時期	6月上旬			6月上旬
品種名	極早生・早生 中熟・普通温 州	ポンカン・清 見・甘夏 河内晩柑・ パール柑	不知火類	ポンカン
肥料名 (成分)		熊本果樹肥料 (10-7-4)		アグリロング 28号 (12-8-8)
10a当り	2俵	3俵	3俵	4表

4. 摘果(粗摘果・早期摘果)

○温州みかん

本年花数が多かった所は次年度の予備枝作りを行いましょう。

◆粗摘果

品種等	実施時期
豊福・肥のさやか	6月中旬~
肥のあけぼの・早生	6月下旬~

◆早期摘果

対象品種	摘果時期	摘果方法	目的
~~ +° \ .	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	10~12果/樹容積1	樹勢維持
デコポン (若木〜成木時)			隔年結果防止
		111	減酸促進
デコポン(幼木)	6月下旬	8果/樹容積1㎡	樹幹拡大

5. タイベック被覆(温州みかんのみ)

早期出荷や品質向上のためには、タイベック被覆はかかせません。遅れないよう計画的に実施しましょう。

品種等	実施時期
豊福・肥のさやか	6月下旬
肥のあけぼの・早生	7月上旬